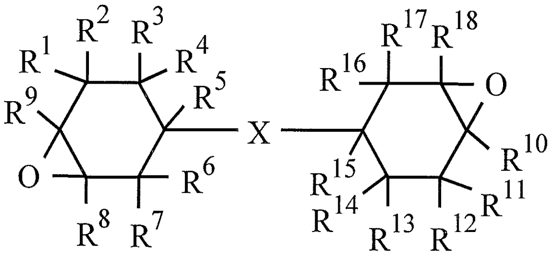
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成29年7月20日(2017.7.20)

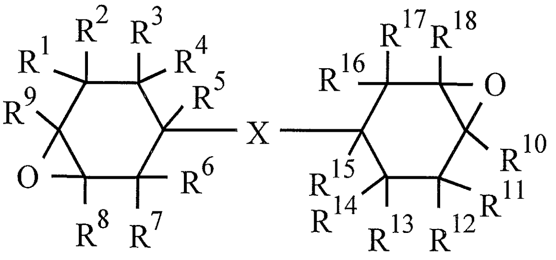
【公開番号】特開2017-36367(P2017-36367A)
【公開日】平成29年2月16日(2017.2.16)
【年通号数】公開・登録公報2017-007
【出願番号】特願2015-156988(P2015-156988)
【国際特許分類】
　Ｃ０８Ｇ　59/24　　(2006.01)
【ＦＩ】
　Ｃ０８Ｇ　59/24

【手続補正書】
【提出日】平成29年6月8日(2017.6.8)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
　下記成分（Ａ）、下記成分（Ｂ）、下記成分（Ｃ）、及び成分（Ａ）以外のカチオン硬化性化合物を含み、硬化性組成物に含まれるカチオン硬化性化合物全量における前記成分（Ａ）以外のカチオン硬化性化合物の含有量が５～８５重量％であることを特徴とする硬化性組成物。
成分（Ａ）：下記式（ａ）で表される脂環式エポキシ化合物
【化１】

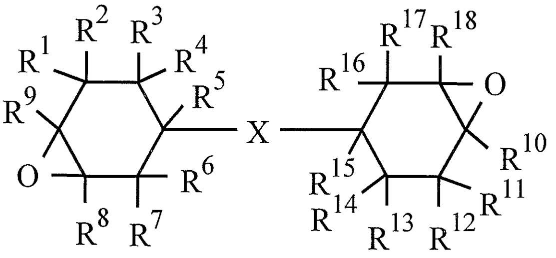

(a)

［式中、Ｒ¹～Ｒ¹⁸は、同一又は異なって、水素原子、ハロゲン原子、酸素原子若しくはハロゲン原子を含んでいてもよい炭化水素基、又は置換基を有していてもよいアルコキシ基を示す。Ｘは単結合又は連結基を示す］
成分（Ｂ）：２５０～４００ｎｍにおける紫外可視光吸収スペクトルにおいて、２８０～３２０ｎｍの間に最大吸収波長を有する耐光性付与剤
成分（Ｃ）：光カチオン重合開始剤
【請求項２】
　前記成分（Ａ）以外のカチオン硬化性化合物として、分子内にエポキシ基を１個以上有する化合物であって成分（Ａ）以外の化合物、オキセタン化合物、ビニルエーテル化合物、及びポリオール化合物からなる群より選択される１種以上を含む請求項１に記載の硬化性組成物。
【請求項３】
　下記成分（Ａ）、下記成分（Ｂ）、及び下記成分（Ｃ）を含み、さらに、成分（Ａ）以外のカチオン硬化性化合物として、分子内にエポキシ基を１個以上有する化合物であって

成分（Ａ）以外の化合物、オキセタン化合物、ビニルエーテル化合物、及びポリオール化合物からなる群より選択される１種以上を含むことを特徴とする硬化性組成物。
成分（Ａ）：下記式（ａ）で表される脂環式エポキシ化合物
【化１】


(a)

［式中、R^1～R^{18}は、同一又は異なって、水素原子、ハロゲン原子、酸素原子若しくはハロゲン原子を含んでいてもよい炭化水素基、又は置換基を有していてもよいアルコキシ基を示す。Ｘは単結合又は連結基を示す］
成分（Ｂ）：２５０～４００ｎｍにおける紫外可視光吸収スペクトルにおいて、２８０～３２０ｎｍの間に最大吸収波長を有する耐光性付与剤
成分（Ｃ）：光カチオン重合開始剤
【請求項４】
さらに、酸化防止剤を含む請求項１～３のいずれか１項に記載の硬化性組成物。
【請求項５】
さらに、フェノール系酸化防止剤を含む請求項１～３のいずれか１項に記載の硬化性組成物。
【請求項６】
請求項１～５のいずれか１項に記載の硬化性組成物の硬化物。
【請求項７】
下記成分（Ａ）、下記成分（Ｂ）、及び下記成分（Ｃ）を含む硬化性組成物にＵＶ－ＬＥＤ（波長：３５０～４００ｎｍ）を照射する硬化物の製造方法。
成分（Ａ）：下記式（ａ）で表される脂環式エポキシ化合物
【化１】


(a)

［式中、R^1～R^{18}は、同一又は異なって、水素原子、ハロゲン原子、酸素原子若しくはハロゲン原子を含んでいてもよい炭化水素基、又は置換基を有していてもよいアルコキシ基を示す。Ｘは単結合又は連結基を示す］
成分（Ｂ）：２５０～４００ｎｍにおける紫外可視光吸収スペクトルにおいて、２８０～３２０ｎｍの間に最大吸収波長を有する耐光性付与剤
成分（Ｃ）：光カチオン重合開始剤
【請求項８】
請求項６に記載の硬化物を有する光学素子。
【請求項９】
請求項８に記載の光学素子を備えた光学装置。